

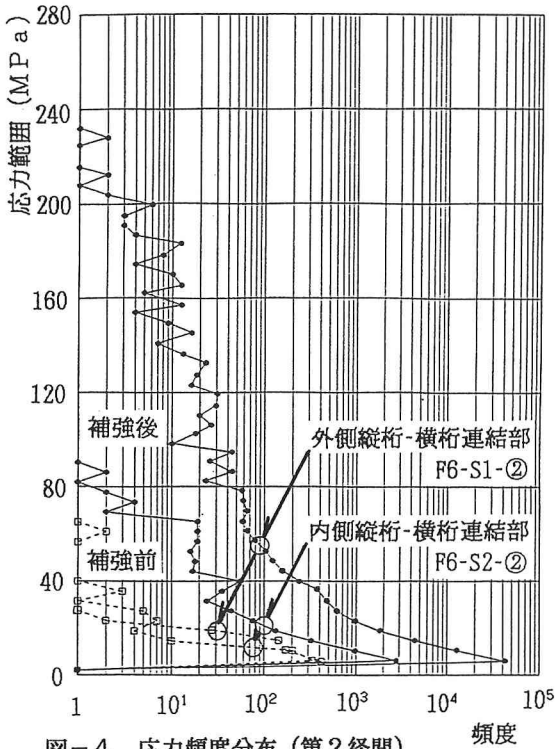


図-4 応力頻度分布（第2径間）

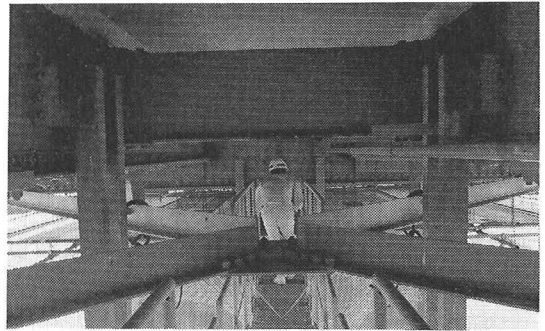


写真-2 内側縦桁間の点検通路

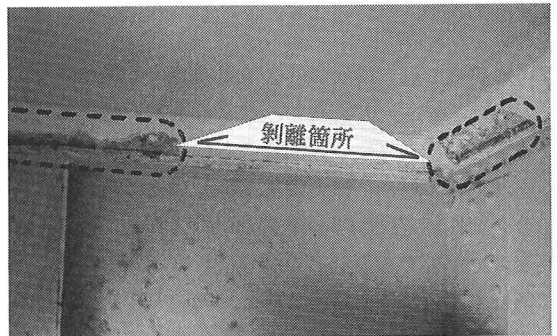
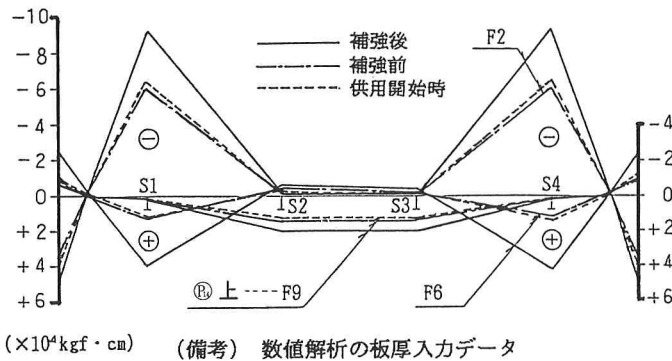


写真-3 床版コンクリートの剝離



($\times 10^4 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) (備考) 数値解析の板厚入力データ

- (1) 補強後：補強前 + 補強設計板厚さ（新規材：設計板厚）
- (2) 補強前：当初設計板厚 - 供用年間（28年）の平均腐食量
- (3) 供用開始時：当初設計板厚

図-5 横桁の面外曲げモーメント（第2径間）

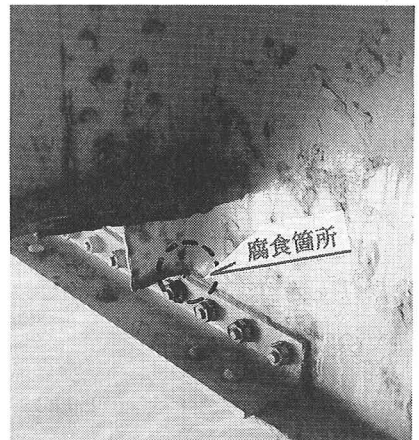


写真-4 補剛材下端部近傍の腐食（第2径間：F2-S1）

3. 点検上の問題点

第2径間で行われた応力頻度測定結果(図-4)及び立体骨組構造解析結果(図-5)から、外側縦桁-横桁連結部補剛材下端部近傍の横桁腹板の面外曲げ応力は、補強後に増加していると考えられる。

これに対して、点検通路は内側縦桁間にあるため、この部位の目視調査を十分に行えない。写真-4の腐食部分にクラックを生じている可能性も考えられるので、この部位に接近できる点検設備が必要である。